

令和2年9月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/

第百号記念特集号



『陽炎の季節』 鷹山宇一 1996年 キャンバス・油彩

「陽炎の季節」

会報第100号の発行ということで、第1号からこれまで発行された会報を改めて見返してみた。美術館建設に至るまでの話やそこに尽力された方々の話、読んでいただけわくわくするような研修旅行の話、展覧会の話に、貴重な講演会の話など、美術館の思い出がたくさん詰まっている。会報を見返しているときに、ふと私の頭の中で浮かんだのが「陽炎の季節」である。透き通るような青みがかった緑を基調とし、画面の下から無数の気泡が上へと昇っていく。無数の気泡と共に描かれているのは5頭の蝶、一列に並ぶ5頭の馬、馬に乗る少女の姿も見える。

「陽炎」とは、密度の異なる空気が混じり合い、光の屈折によって起り、日本では春の季語として使われることが多い。天気が良い風もあまりない穏やかな昼間にモヤモヤと地面から炎のような揺らめき立ち上がる現象の事をいう。鷹山の晩年の作品に多く見られる無数の気泡は、これまで歩んできた鷹山自身の記憶だろうか。鷹山88歳の時の作品であるが、画家として生涯「浪漫的な幻想世界」を追い求めてきた鷹山は己の「記憶・思い出」をも絵筆に乗せ、作品に取り込みさらなる進化をみせ、新たな幻想世界を完成させた。やわらかい光を帯びた気泡からは全てを受け入れる優しさも感じさせる。

美術館が歩んできた歴史は、「会報」という形で記録され、一ページ一ページが記憶となり、「鷹山宇一記念美術館」の一部となり、この美術館にしか出せない色を付けているのだろう。「記憶・思い出」というのは陽炎のように常に変化し、はかなく、消えゆくものであるが、決して忘れる事のないよう、消えることのないように、残しておくことが大切なんだろうと改めて考えることが出来た。

学芸員 遠藤 未奈子

会報「第100号」達成を祝して

皆様のご協力とご支援に感謝し、更なる会報充実を



旅行記で紙面を汚す。たまにお勧め美術館の記事や研修

を思い知らされま
す。たまたまに勧め美
術館の記事や研修
旅行記で紙面を汚
す。たまにお勧め美
術館の記事や研修

「二号で終わらな
い様に」と叱咤激
励されてスタートし
たという友の会会報
が、なんと！とうと
う一〇〇号という
記念すべき輝かしい
偉業を達成するこ
とになりました。

鷹山宇一記念
美術館友の会
会長 下山恭美子

しているだけの私は、たまたま会長職にあったという巡り合わせでこの一〇〇号記念号に携わることになった幸せを面映ゆい気持ちで噛み締めているところです。

五十号時の盛田駿造前会長は、会報発行継続の危機を幾つか述べておられました。その一つ、会員数は減少しているのが現状です。でも、発行回数四年四回を堅持し、九十九号からは全頁カラー判での美しい会報づくりに挑戦、これが周年事業時には合本として生まれ変わります。「友の会」という美術館を支える立場の活動の大きな事業は鷹山宇一先生の絵画購入寄贈、そして、研修旅行も誇れる活動として上げられます。会旗を高々と掲げ国内のみならず海外の美術館や観光地を巡る旅で小さな町の誇れるこの美術館の傘下にある友の会を誇らしく思います。

しかし、会員の高齢化が進むなか、若い年齢層の会員増が課題になつてきています。そのためには魅力ある活動を継続し発信する、その一翼を担っているこの会報の一〇〇号達成を祝うと共に、新たな歴史を刻むべくさらに力強い歩みを進める決意を致したところです。

【参考略年表】

- 1994年 七戸町立鷹山宇一記念美術館開館(8月1日)初代館長に小原恭平氏就任、友の会創立(11月19日)初代会長に山本洋一氏就任
- 1995年 友の会会報第1号発行(1月15日)、美術館グランドオープン(スペイン民芸・資料館竣工)
- 1996年 第2代美術館館長に佐藤亘氏就任
鷹山宇一作品購入資金積立開始
- 1997年 鷹山宇一画集刊行
- 1999年 第3代美術館館長に鷹山ひばり氏就任
鷹山宇一逝去(10月25日)、会報号外発行
- 2001年 鷹山宇一作品購入資金100万円寄付(第1回)
- 2004年 鷹山宇一作品購入資金100万円寄付(第2回)
美術館・友の会10周年 会報10周年記念号発行
- 2006年 第2代友の会会長に盛田駿造氏就任
- 2008年 鷹山宇一作品購入資金100万円寄付(第3回)
「鷹山宇一誕生100周年記念号」発行、同記念事業(講演会、DVD全会員に無償配布)
- 2009年 第4代美術館館長に戸舘昭吉氏就任
鷹山ひばり氏は青森県立美術館長就任
美術館・友の会15周年、鷹山宇一没後10年
- 2011年 鷹山宇一作品購入資金100万円寄付(第4回)
- 2012年 第5代美術館館長に船山義郎氏就任
- 2014年 美術館・友の会20周年記念事業実施
新「鷹山宇一画集」全会員に無償配布
会報20周年記念号発行、鷹山宇一没後15年
- 2015年 第6代美術館館長に鷹山ひばり氏就任
- 2016年 第3代友の会会長に下山恭美子氏就任
- 2019年 美術館・友の会25周年記念事業実施
「宇一が描いた蝶展」図録を全会員に無償配布
- 2020年 会報第100号記念号発行(9月15日)

表紙画像で見る創刊号からの歩み



お祝いの ことば

「友の会」会報第一〇〇号 記念号発刊に寄せて

(公財)鷹山宇一記念美術振興会
理事長 新谷勝弘

七戸町の文化・芸術の中心拠点を目指し、町が文化村構想に基づき、文化村の一角に「鷹山宇一記念美術館」が開館してから昨年二十五周年を迎えることができ、更に開館半年後の平成七年一月に第一号を発刊以来、今年九月発行で記念すべき第一〇〇号を迎えることができました。会報は開かれた美術館活動の一翼を担う役割を果たし、美術館と会員を結ぶ大きな絆となっており、これを偏に「友の会」の皆様方、関係者各位のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

今年(令和二年)になり、新型コロナウイルスの感染拡大が国内外の各地で発生し、未だ沈静化の目処が立っておらず、「三密」を避ける・マスクの着用・消毒の徹底・不要不急の外出をさけるなど、「新しい生活様式」を模索している状況にあります。

このような時に最も影響を受けるのが文化芸術の分野ではないかと思われます。しかし、芸術活動は人生にとつて欠くことのできないものであり、新しい生活様式の徹底等により、近い将来、今までのような文化・芸術の振興が図られることを切望しております。事業内容では決して他美術館に引けをとらない「小さな町の小さな美術館」と一緒に歩んで下さっている友の会の一層の発展を祈り、更に、誰からも愛される美術館であることを期待し、お祝いの言葉と致します。

「記念号に寄せて」

七戸町立鷹山宇一記念美術館
館長 鷹山ひばり

絵描きの娘で育った私には夢がありました。父の友人たちの何気ない言葉、熱く語る芸術論、箸袋に描いたラフ絵、いつの日にか一冊の著書にしてこの世に残したい。又、小さな美術館で好きな作品に囲まれて歳を重ねていきたい。こんな夢また夢が五十歳で叶った時は、深い感動で言葉がありませんでした。

四半世紀に渡り開催してきた展覧会は、「平山郁夫展・椿絵名品展・東郷青児展・織田廣喜展・手塚治虫展・藤子不二雄展・無言館展・松本零士展」など書き出せば切りがありません。それぞれが

作家の良心や精神が根底に蓄積して誇り高き展覧会でした。その中でも「星野富弘展」では「人間は困難に負けずここまで努力できるのか」と胸が締め付けられ、戦争体験者の安野光雅先生には「絵本はネ、平和でなければ子どもは読めないのだ」と平和の礎を教えて戴きました。「模型のタミヤ展」では田宮会長より「子どもだった時の心を思い出せ」と原点回帰を指摘され、どの展覧会でも学ぶ事ばかりでした。

絶望の中から一条の希望を見い出せる展覧会、この世を去る時ふと脳裏に浮かぶ展覧会、何よりも人生に重なり合い思い出として残る展覧会。奇を衒うことのない感動に包まれ、語り継がれる展覧会を目標に、日々歩み続けられるのは、友の会の皆様方の大きな後ろ盾があるからこそと深く感謝を申し上げます。友の会の存在は組織が小さいからこそ、その有難みがわかります。見返りを求めない無償の愛を送り続け、下さる皆様方のご多幸と友の会の益々の隆昌を祈念し、矜持を持ってこれからも精進して参ります。

会報の一〇〇号到達に思う

七戸町立鷹山宇一記念美術館
第二代館長 佐藤 亘

友の会の会報が、一〇〇号に達

すると知り、いつとき美術館に籍を置いた一人として、じわっと吹き上がってくる高揚感と共に、編集、制作に苦闘された関係者の皆さんの、大きな喜びを思い、できればその感動を共有したい思いでいっぱいであります。

何とまれ、見事な会報です。美術館の足跡が余すことなくすつきりと記録され、記事の端々に館に対する愛情を感じるのです。会員の記事にも館への思いが心地よく表現され、その人の息遣いまでもが感じられて、毎回楽しく拝読しております。

今私は、不思議な感慨の中にあります。それは、七戸の人々の心の底流に、文化への強い渴望が、いつもふつふつと小さな音を立てて流れているような気がするのです。

大正期、青岩寺に始まる青山哀囚氏を中心とした学生達の咆哮、昭和三十年代、小原恭平氏を中心とした演劇研究会に集う若者達の雄叫び、平成に入つて、青岩寺の青山浄晃氏や後の初代館長小原恭平氏を中心に湧き上がった、町に文化の殿堂の建設を、の強い願いに共感した多くの人々の力の結集と、町を愛する鷹山先生と御家族の深いお気持ちを感じたい。鷹山宇一記念美術館が誕生したのです。

この大事業を推進させ、創建までもつてきた力の源泉、これこ

そが、七戸の人々の心の中を流れる熱い思いではないかと、今回の一〇〇号達成の知らせを受けて、ひそかに、そっと頷いているのです。

友の会「会報第一〇〇号 記念号」発行への想い

七戸町立鷹山宇一記念美術館
第五代館長 船山義郎

「友の会」の自主的運営及び持続的会報発行は全国的に稀であり、多岐にわたる会報内容は編集者や原稿執筆者、美術館職員の三位一体の取組によるものであり、著名な美術関係者から高く評価されていることは周知の事実です。

会報には、主として三つの特徴があると推考しています。

第一に、会報には当美術館の事業実施状況が詳細に記載されているので、年毎の歩みを知る上で貴重な資料となっている。

第二に、会報は会員をはじめ、各種団体関係者が当美術館の運営に理解を示す情報源として重要な役割を担っている。

第三に、会報は美術館日誌や各教室の紹介などで、美術に関する興味関心を誘発する原動力となっている。

これらを基に鑑みると、友の会会報の重要性は自明の理であり、未来に向かつて不易流行の情報発信が期待されます。

今後とも当美術館の行く末を見守り、友の会のさらなる充実発展を願っております。

鷹山宇一記念美術館友の会「会報第一〇〇号記念号」が発行されることに対して、衷心より祝意を表します。

創刊の頃

鷹山宇一記念美術館友の会
初代会長 山本洋一

友の会の会報が本号をもって遂に一〇〇号を迎えるとのこと、初期には私も編集に携わっておりましてので率直な賛辞は憚られませんが、定期的に発行を続け美術館の情報発信と会員相互の結びつきを支えてきたことは、やはり顕著な実績と申し上げるべきと思います。

発刊当時を思い起こせば、インターネットやスマホはおろか、パソコンもデジタルカメラもまだ普及しておらず、原稿は手書きやもはや絶滅したワープロ専用機によるものがほとんどでした。ワープロといつても互換性がないため、美術館のパソコンに再度手入力したものでした。その原稿を会報の文字数と行数に揃えて印刷して台紙としますが、写真や資料の取り込み機能など当時のパソコンにはありませんのでコピー機で画像を拡大縮小して切り貼りして印刷所に持ち込みました。初期の会報

はモノクロ印刷でしたので、こうした手作業でも何とか発行出来たのです。

当時、段組編集機能のある整版用のソフトウェアが発売され導入を検討しましたが、二〇〇万円以上もしたため断念した思い出があります。しかし、今では同等の機能を備えたソフトが低価格パソコンやスマホにも標準で装備されており隔世の感があります。

様々な試行錯誤を重ねてきた会報ですが、鷹山美術館の歩みを残してきたことには大きな意義があると考えます。ただ、鷹山先生ご本人や奥様そして関係者の皆様にもっとお話しを伺い、記録したかったとの悔いも残っております。

会員の皆様には、今後とも友の会を支えて下さいますようお願い申し上げます。

会報第二〇〇号を目標に

鷹山宇一記念美術館友の会
第二代会長 盛田駿造

友の会の会報第一〇〇号おめでとうございます。

小原恭平初代館長からは、しばしば三号で終わらないようにと言われておりました。この約束は、会員の皆様、歴代編集長はじめスタッフの努力により果たす事が出来ました。

友の会では、平成十六年度に

会報第一号から第三十七号（設立十周年記念特集号）までを「会報合本」として、平成二十六年に会報第三十八号から第七十七号（設立二十周年記念特集号）までを「会報合本Ⅱ」として発行しております。

私は、折にふれてこれらの合本を読み返しておりますが、会報は、美術館と友の会の歴史を伺う参考資料として重要な役割を果たしており、小さな美術館の友の会として継続して発行していることは、希有なことではないかと思っております。

また、最近の会報の充実ぶりは、眼を見張るものがあります。会員による研修旅行記、おすすめ美術館等のほかに「鷹山絵画に描かれた蝶の分類（連載）」の発表、「彫刻家鈴木正治の作品紹介（連載）」、美術館スタッフによる情報などです。

これまで、会報の編集、制作に携わった友の会の担当者、様々な原稿をお寄せ下さった会員を始めとする関係者の方々、館報部分を担当された美術館のスタッフ、そして叱咤激励をお寄せいただいた会員の皆様のお力で一〇〇号を迎えることが出来たことに、深く感謝申し上げます。

会報第二〇〇号を目標に、充実の会報を期待して、お祝いの言葉といたします。

会員からのお祝いのお便り

鷹山宇一記念美術館友の会会報第一〇〇号という記念号発行にあたり、会員の皆様方から心あたたまるお祝いのお便りを頂きましたのでご紹介致します。

文化、暮らしの

プラットホームとして

文化功労者

東京都 北川フラム

七戸町には久しく伺っていない、と書いてみて、五十号記念誌にも同じことを書いたなあ、と思ひ出しました。この半年、コロナ禍で、東京からほとんど動けなくて、地域はますます遠くなりました。昨年までは、国内でも海外からも多くの人たちが、固有の歴史や地形や気候のなかで育まれた日本の地域に移動する傾向が増していたので、このあとどうなっていくのか心配です。しかしネット等での情報が多くなればなるほど、具体的な地域に行き、人とお会いし、その土地の食事をいただき、お祭りに参加する体験は大切になるし、その機会は何ものにも代えられない喜びになっていくと思います。私たちの祖先が

みあげてきた移動、会食、集まり話すという行為は人類の共通のベースでした。これを大切にしていかなくてはいけないと思います。

前回も書きましたが、七戸は私にとつて、それらの大切なものの原点のひとつでした。人々はあたたかいし、料理もよかった。やわらかな会話のぬくもりは今も身体に残っています。美術館は、公民館や、以前のお寺のような文化的なプラットホームだと思います。世界中のほぼすべての人が経験したコロナ禍で生活は少しづつ、或いは劇的に変わるかも知れませんが、文化、暮らし



のプラットホームとして美術館が働いているだろうし、そうであって欲しいと祈念し、ご挨拶いたします。

北川氏と七戸町とは故青山浄晃氏(元(財)鷹山宇一記念美術館振興会理事長)とのご縁で親交があり、「子どもたちのための版画展」を開催後「ガウディー展」、「アパルトヘイト否!展」などを開催しました。又、スペイン民芸資料館展示のスペイン陶器を町に寄贈されました。

代表的なプロジェクトとしてファール立川、大地の芸術祭ー越後妻有アートトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭などの総合ディレクターとして地域創生に寄与。日本都市計画学会会計画設計賞、フランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエ章、芸術選奨文部科学大臣賞など数多く受賞。平成30年度には「文化功労者」に選ばれました。

現在、(株)アートフロントギャラリー代表取締役会長、青山学院大学、香川大学、神戸芸術工科大学の客員教授のほか多くの役職を務めている。詳細はHPを参照して下さい。

編集係の思い出

七戸町 奥山雅子

初代館長の故小原恭平先生に「最初の三号までが大変、とにかく三号発行すればその経験が生きて

何とかなる。」その通り何とかなって一〇〇号まで発行できました。

今から二十年ほど前、会報第二十二号(平成十三年三月号)から二十三号(平成十五年十二月号)までの三年ほど編集係をさせて頂きました。会報の締切りが近づくたびに時間を見つけて美術館に出向き、原稿の確認、催促、割り付け等々、年四回三ヶ月ごとの発行ですので、あつという間に次の号に……。

当時の大池亜希子学芸員にかなりの部分を手伝ってもらいながら、何とか印刷発送の繰り返しでした。本業の仕事、家事、子育て、介護と、なんてめまぐるしい忙しい日々だったことでしょう。(今思えば本当に若かった)

その後は戸館榮一事務局長にバトンタッチして、会報五十五号から現在の照井壽一編集長となります。継続は力なり。これからも会員の皆様のさらなるご支援をよろしく願います。

第二〇〇号に向けて

七戸町 大下内尚

美術館友の会、会報第一〇〇号の発刊おめでとうございます。

一〇〇号。口で言えば簡単な様

ですが一〇〇回も継続発行する事は大変な事で、これ迄発行を担当して下さった方々に敬意を表します。

友の会の会報には大きく分けて二つの役割があると思われます。先ず美術館及び友の会からの情報を伝える事、次に後で参考になる様な資料的な役割。友の会の会報はこの二つの役割を上手に果たしております。

友の会では年間の行事として国内、海外の美術館研修旅行を行っておりますが、その第一回目の「萬鉄五郎美術館」への研修旅行の様子を早くも第二号の会報で伝えております。

友の会主催の国内での研修旅行の他に「鷹山宇一記念美術館」開館五周年を記念し、海外の美術館研修へと足を伸ばしました。この海外研修旅行は今八回目を計画中の様です。

会員の中で、国内、海外での研修旅行に参加出来なかつた方のためにその時の研修内容を会報で詳しく伝えて下さいました。ありがとうございます。今後とも美術館及び友の会の活動を伝える会報として、二〇〇号に向けて益々充実させていくことを期待しております。

友の会会報一〇〇号記念

おめでとーございませう！

神奈川県 野谷善達

神奈川県在住の私が何故友の会会員になつたのかには色々な縁がある。平成三年、母の死去に伴い祖父鳥谷幡山の作品(日本画)が私の手元に残された。このまま手元に保管していてもいざれ四散してしまうと考え、将来にわたり保管、展示してくれる寄贈先を探した。祖父の出身地青森であれば何処か保管を受け入れてくれるのではないかと期待し寄贈先を探したが、その当時青森市にも美術館はなかつた。こんな話を友人に話したら友人の知人が青森出身者で近々七戸という町に美術館ができるらしいとの話がもたらされた。奇しくも祖父は七戸の瑞龍寺の出身であった。早速七戸町の関係者に連絡をとり、最終的に十数点の幡山の作品を美術館に寄贈することにした。平成六年八月美術館の開館式に招待され、それ以来美術館、友の会とおつきあいが始まつた。祖父鳥谷幡山に導かれた不思議な縁！いつか又幡山の作品の展示があつたら「美術館の幡山の作品たち」に逢いに行きたい。

会報通算一〇〇号を迎えて

つがる市 山口和也

吉永小百合さんに憧れて年齢を逆サバ読みの試みは失敗までして入会した大人の休日倶楽部どこにも行けぬコロナ禍で脱会もし三日間だけ目が見えるならメトロポリタン美術館！のヘレン・ケラー女子のごとく雅画風ライフ素テキスタイル長所をキャンバスに定着の始点は子供の美術クラブ野球だったら美技GLOVE自転車に手放して乗れた瞬間に手離しで喜ぶ親と子スポーツの中で最も単調な水泳でも水中での発見の積み重ねが長調となり息づかいのコツをマスター絵で言えば筆づかい目に見えぬコロナよく見るがいいカミュが生きづらいペストを書き池江璃花子さんが白血病に負けずN響コンサートマスター篠崎史紀さんが音楽が不要不急なんて絶対ありえないと発信してくれ関根妃奈乃さんが『詞』にしたように会報が通算一〇〇号を迎える七戸町立鷹山宇一記念美術館は来館者たちを迎えようと『待っている』自祝の日と共に我々は待っている芸術たちを視点は人生BE美LOVE

新しき時代に向かつて

七戸町 戸館榮一

一〇〇という数字は、一つのエポックを画すことであると思う。九十九より単に一つ増えただけなのに、「記念すべき」とか「新しき」とか、何かにつけて意義あるものとして特別な思いにかられる。

この意味で、私たちは「継続」することの困難さと「継続」することの意義深さを認識している。

町づくりの根本思想である「人づくり」のシンボルとして鷹山宇一先生を顕彰して建築された「七戸町立鷹山宇一記念美術館」が平成六年八月一日に開館、十一月十九日に友の会が設立、さらに年明け一月には会報第一号が発刊されている。この手づくりによる「会報」が一〇〇号を迎えることが出来たことは、会員の一人として大いに誇つて良いことだと思つている。

会報には県内外及び海外研修旅行の実施、絵画作品購入資金の寄附、作家論等の連載、美術館情報の提供など、会員のご支援とご協力によつて友の会活動が紹介されており、今後とも美術館・友の会と会員をつなぐツールとして充実させていくことを願つている。

特別展のポスターで見る平成27年1月～令和2年9月迄の歩み

2015年度(平成27年度)



第75回国際写真サロン展

2015年度(平成27年度)



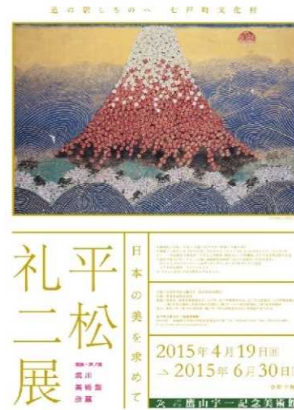
「県南コレクション」
第2期 特集 伊藤三子

2015年度(平成27年度)



第15回鷹山賞児童作品展
「併催」第15回JQA地球環境
世界児童画コンテスト優秀作品展

2015年度(平成27年度)



箱根・芦ノ湖 成川美術館所蔵
平松礼二展 ～日本の美を求めて～

2016年度(平成28年度)



片岡鶴太郎展「四季彩花」

2015年度(平成27年度)



「県南コレクション」
第3期 特集 多田瓊林

2016年度(平成28年度)



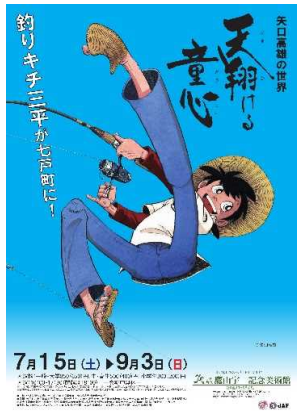
模型のタミヤがやってきました!!
— 永遠に 僕らの心は 少年さ —

2015年度(平成27年度)



レセプターオブしちのへ
鷹山宇一と石井キク

平成29年度(2017)



矢口高雄の世界
「天翔ける童心」展

2016年度(平成28年度)



草乃しずかの世界展
ひと針に折りをこめて40年

2017年度(平成29年度)



北辰の宙
渡辺貞一 生誕百年記念展
— 中井昌美コレクション —

2016年度(平成28年度)



第16回鷹山賞児童作品展
「併催」第16回JQA地球環境
世界児童画コンテスト優秀作品展

2017年度(平成29年度)



第17回鷹山賞児童作品展
「併催」第17回JQA地球環境
世界児童画コンテスト優秀作品展

2016年度(平成29年3月)



第76回国際写真サロン展

2017年度(平成30年2〜3月)



「二科青森支部60周年記念展」
— 鷹山宇一と二科の仲間たち —

2017年度(平成29年度)



ルドウーテのバラ展

2018年度(平成30年度)



宇一が描いた蝶展

2017年度(平成30年3月)



第77回国際写真サロン展
2018年3月17日(土)～3月31日(日)

入場料: 観覧1000円、学生・高齢者700円、55歳以下小学生以下500円
※学生・高齢者は別途証明書の提出が必要
※JAF会員は観覧料が半額(小学生以下半額)
入場時間: 10:00～18:00(最終入場17:30)
休場: 休日は観覧料が半額(小学生以下半額)
主催: 成川美術館、宇一記念美術館、成川美術協会
協賛: JAF、成川美術館、成川美術協会、成川美術会

成川美術館
成川美術協会

次回特別展 2018年4月7日(土)～7月1日(日) ★★
「桜・さくら・花しょうぶー成川美術館コレクション」

第77回国際写真サロン展

2018年度(平成30年度)



第18回鷹山賞児童作品展
／藤谷芳雄の世界展

藤谷芳雄の世界展

成川美術館
成川美術協会

2018年度(平成30年度)



桜・さくら・花しょうぶ
ー成川美術館コレクションー

2018年度(平成31年2月～3)



第78回国際写真サロン

2018年度(平成30年度)



漫画界のレジェンド
松本零土展

2019年度(平成31年3月～4月)



常設展 馬との暮らし
(郷土館連携展)

2019年度(令和元年11月~令和2年1月)



第19回鷹山賞児童作品展
 「併催」第19回JQA地球環境世界児童画
 コンテスト優秀作品展

2019年度(平成31年4月~令和元年7月)



時を超えても花ひらく椿はTSUBAKI
 | あいおいニッセイ同和損保コレクション |

2019年度(令和2年3月)



第79回国際写真サロン展

2019年度(令和元年度)



模型のタミヤがやってきたPart 2
 | 少年の心、今走り出す! |

2020年度(令和2年度)



「大正浪漫の寵児 竹久夢二展」

2019年度(令和元年度)



七戸町立鷹山宇一記念美術館
 開館25周年記念 宇一が描いた蝶展

七戸町立鷹山宇一記念美術館&鷹山宇一記念美術館「友の会」編集

(ポスター画像提供:七戸町立鷹山宇一記念美術館)

鷹山宇一記念美術館 & 友の会 略年譜

記録と写真で見る平成27年度から令和2年9月までの歩み

鷹山宇一記念美術館		鷹山宇一記念美術館友の会	
平 6. 8.1 (1994)	七戸町立鷹山宇一記念美術館開館	平 6.11.19 (1994)	七戸町立鷹山宇一記念美術館友の会設立総会開催
		平 7. 1.15 (1995)	七戸町立鷹山宇一記念美術館友の会 会報第1号刊行

平成26年度(2014年度)		平成26年度(2014年度)	
26.12.21	第15回「遊蝶記」の集い	27. 3. 5	会報第78号発行



平成27年度(2015年度)		平成27年度(2015年度)	
27. 4. 1 } 4.12	「県南コレクション展」第2期 特集 伊藤二子	27.6.13	平成27年度通常総会開催
27.4.19 } 6.30	箱根・芦ノ湖 成川美術家所蔵 平松礼二展～日本の美を求めて～		通常総会議案審議風景
		27.6.13	平成27年度友の会総会記念講演 『県南コレクション展 第3期 特集 多田瓊林』展特別トークイベント「幻の画家・多田瓊林」講師 郷土史家 山崎栄作氏
27. 7. 11 } 8.30	「県南コレクション展」第3期 特集 多田瓊林	27.6.14	平成27年度第1回研修旅行 岩手県立美術館・御所湖川村美術館 日帰り 23名参加
			御所湖川村美術館前にて
27.9.12 } 10.12	レセプターオブしちのへ 鷹山宇一と石井キク	27.6.15	会報第79号発行
		27.9.15	会報第80号発行
	展覧会場初日風景	27.11.17 } 11.19	平成27年度第2回研修旅行「加賀会席と金沢二十一世紀美術館鑑賞の旅」2泊3日 15名参加

<p>27.10.20 〉 11.8 27.11.15 〉 28.1.17 27.12.13</p>	<p>第75回国際写真サロン展</p> <p>「第15回鷹山賞児童作品展」【併催】第15回 JQA地球環境世界児童画コンテスト優秀作品 展</p>  <p>授賞会場風景</p> <p>第16回「遊蝶記」の集い</p>	 <p>兼六園で記念写真</p> <p>27.12.15 会報第81号発行 28. 3.15 会報第82号発行</p>
--	---	---

平成28年度(2016年度)		平成28年度(2016年度)	
<p>28.4.23 〉 6.26 28. 8.6 〉 9.4 28.9.10 〉 11.6 28.11.13 〉 29.1.22</p>	<p>片岡鶴太郎展「四季彩花」</p>  <p>サイン中の片岡鶴太郎氏</p> <p>模型のタミヤがやってきた！！ — 永遠に 僕らの心は 少年さ —</p>  <p>会期中に「ミニ四駆」工作教室開催</p> <p>「草野しずかの世界」展 ひと針に祈りをこめて40年</p> <p>「第16回鷹山賞児童作品展」 【併催】第16回JQA地球環境世界児童画コン テスト優秀作品展</p>  <p>授賞会場風景</p>	<p>28.6.11 平成28年度通常総会開催 友の会 新会長に下山恭美子氏就任</p>  <p>議案審議風景</p> <p>28.6.15 会報第83号発行 28.7.3 平成28年度第1回研修旅行弘前市博物館「水 野美術館コレクション 花鳥風月 - 近代日本 画 美の系譜 -」</p>  <p>弘前市観光会館前にて</p> <p>28. 9.15 会報第84号発行 28.10.18 平成28年度第2回研修旅行「箱根アート巡りの 旅」 〉 10.2</p>  <p>ポーラ美術館にて</p>	

28.12.10	第17回「遊蝶記」の集い	28.12.15	会報第85号発行
29. 3.18	第76回国際写真サロン展	29. 3.15	会報第86号発行
3.31			

平成29年度(2017年度)		平成29年度(2017年度)	
29.4.15	前期 : ルドゥーテのバラ展	29.6.10	平成29年度通常総会開催
5.28	 <p>開催式・テープカット</p>		 <p>議案審議風景</p>
29.5.30		後期 : ルドゥーテのバラ展	
7.9		6.15	 <p>天心記念五浦美術館にて</p>
29.7.15	矢口高雄の世界「天翔る童心」展	29.6.15	
9.3	 <p>開催式・テープカット</p>	29.9.15	会報第88号発行
29.9.16		北辰の宙 渡辺貞一生誕100年記念展	⇒
11.5	— 中井昌美コレクション — (写真:右欄)	29.12.15	会報第89号発行
29.11.12	「第17回鷹山賞児童作品展」	30.3.15	会報第90号発行
30.1.21	【併催】第17回JQA地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展		
29.12.10	第18回「遊蝶記」の集い		
30.2.10	「二科青森支部60周年記念展」— 鷹山宇一と二科の仲間たち —		
3.11			
30.3.17	第77回国際写真サロン展		
3.31			

平成30年度(2018年度)		平成30年度(2018年度)	
30.4.7	桜・さくら・花しょうぶ — 成川美術館コレクション —	30.6.9	平成30年度通常総会開催
7.1	 <p>開催式・テープカット</p>		 <p>議案審議風景</p>

<p>30.7.14 } 9.9</p>	<p>漫画界のレジェンド 松本零士展</p>  <p>松本零士氏のサイン会を待つ 美術館前の長蛇の列</p>	<p>30.6.10</p>	<p>平成30年度第1回友の会研修旅行 ～絵画の絆「フランスと日本～」展・青森県立郷土館&「常田健 土蔵アトリエ美術館」</p>  <p>常田健土蔵アトリエ美術館にて</p>
<p>30. 9. 15 } 11. 4</p>	<p>宇一が描いた蝶展</p>	<p>30. 6. 15 30. 9. 15</p>	<p>会報第91号発行 会報第92号発行</p>
<p>30.11.18 } 31.1.20</p>	<p>第18回鷹山児童作品展／藤谷芳雄の世界展</p>  <p>授賞会場風景</p>	<p>30.10.2 } 10.4</p>	<p>平成30年度第2回研修旅行「軽井沢・小布施・穂高美術鑑賞の旅」</p>  <p>無言館にて</p>
<p>30.12.9 31.2.10 } 31.3.10</p>	<p>第19回「遊蝶記」の集い 第78回国際写真サロン展</p>	<p>12.15 31.3.15</p>	<p>会報第93号発行 会報第94号発行</p>

平成31年度(令和元年度・2019年度)	平成31年度(令和元年度・2019年度)
----------------------	----------------------

<p>31.3.17 } 4.14</p>	<p>常設展 馬との暮らし(郷土館連携展)</p>	<p>平成31.4.30 令和元.5.1</p>	<p>平成時代閉幕 令和時代開幕</p>
<p>平成31.4.30 令和元.5.1</p>	<p>平成時代閉幕 令和時代開幕</p>	<p>令元.5.7 } 5.14</p>	<p>鷹山宇一記念美術館友の会設立25周年・第7回海外研修旅行「感動の旅中欧3カ国周遊・美術紀行8日間」7泊8日 参加者27名</p>
<p>31.4.27 } 令元.7.28</p>	<p>時を超えても花ひらく 椿はTSUBAKI — あいおいニッセイ同和損保コレクション —</p>  <p>開催式・テープカット</p>	<p>令元.6.8</p>	<p>ウイーン・シエーンブルン宮殿にて</p>
<p>令元.8.10 } 9.8</p>	<p>模型のタミヤがやってきた Part2 — 少年の心、今走り出す！—</p>  <p>(株)タミヤ 田宮俊作会長も出席したタミヤ展開催式・テープカット</p>	<p>令元.6.8</p>	<p>令和元年度通常総会開催</p>  <p>通常総会に先立ち来賓挨拶される 鷹山ひばり館長</p>
<p></p>	<p></p>	<p>令元.6.15</p>	<p>会報第95号発行</p>

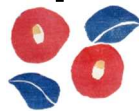
<p>令元.9.22 令元.9.22 11.4 令元.11.17 令2.1.19 令元.12.8 令2.3.8 3.22</p>	<p>七戸町立鷹山宇一記念美術館開館25周年記念「宇一が描いた蝶展」発行 七戸町立鷹山宇一記念美術館開館25周年記念実行委員会がクラウドファンディングにより制作 七戸町立鷹山宇一記念美術館開館25周年記念「宇一が描いた蝶展」</p>  <p>開催式・テープカット</p> <p>「第19回鷹山賞児童作品展」 【併催】第19回JQA地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」</p>  <p>授賞式風景</p> <p>第20回「遊蝶記」の集い 第79回国際写真サロン展</p>	<p>令和元年度第2回研修旅行 岩手県立美術館を訪ねて「ホキ美術館展・写実絵画の魅力」日帰り</p>  <p>岩手県立美術館前にて “ウイスキー～パチリ”</p> <p>会報第96号発行</p> <p>七戸町立鷹山宇一記念美術館友の会設立25周年記念事業「宇一が描いた蝶展」図録を会員全員に無償配布</p>  <p>「宇一が描いた蝶展」図録</p> <p>会報第97号発行</p> <p>会報第98号発行</p>	
--	---	---	--

令和2年度(2020年度)		令和2年度(2020年度)	
<p>令2.8.22 11.8</p>	<p>「大正浪漫の寵児 竹久夢二展」</p>  <p>開催初日の鷹山宇一記念美術館外観</p>	<p>令2.6.10 6.15 9.15</p>	<p>令和2年度通常総会開催 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面議決とし、6月10日迄の表決期限で開催。</p> <p>会報第99号発行</p> <p>会報第100号記念号発行</p>

七戸町立鷹山宇一記念美術館&鷹山宇一記念美術館「友の会」編集
(写真提供：七戸町立鷹山宇一記念美術館&友の会)

大正浪漫の寵児

竹久夢二展 開幕



新型コロナウイルス感染症の影響を受け、延期となっております「大正浪漫の寵児 竹久夢二展」が8月22日(土)に無事にオープンしました。大正浪漫を代表する画家・竹久夢二の美人画はもちろん夢二がデザインした封筒や便せん、雑誌や楽譜の表紙絵、書籍の装幀、挿絵など、夢二のデザイナーとしての一面も知ることが出来る展示となっております。

展示作品からご紹介



「藤の花」

大正 15 (1926) 年婦人グラフ
5月号表紙絵 (木版画)

「婦人グラフ」とは大正13年から昭和3年にかけて55冊出版された女性向け高級グアビア雑誌です。四季折々の草花や風物をあしらいい、その季節に合わせたファッションに身を包んだ女性は当時の女性から絶大な人気を得ました。



「歌劇 椿姫」

大正 6 (1917) 年セノオ楽譜 (石版画)

セノオ楽譜とは、妹尾幸陽が日本や外国の数々の名曲を紹介するために出版していた楽譜集で総数は千曲以上にも及びます。夢二はその内200余点の表紙を手がけており、グラフィックデザイナーとしての才能を示す特筆すべき仕事のひとつと言えます。



「千代紙 大椿」

大正 3 (1914) 年 (木版画)

1914年、夢二は東京日本橋に「港屋 絵草子店」を開店しました。自身がデザインした封筒や便せん、千代紙、浴衣、帯などを並べ、それらは「可愛い」という言葉で宣伝されました。夢二が発信した「可愛い」は当時の若い女性たちの心を掴み、人気を博しました。

8/22 第1号のお客様

本展の最初のお客様となった十和田市の豊川千鶴子さんとお孫さんの瀬那さん。鷹山館長から記念品として、竹久夢二の図録が贈られました。



今回展示総数は259点！豊富な作品と資料で存分に夢二の世界に浸って頂けることでしょう。皆様のご来館を心よりお待ちしております。



一筆箋やハンカチ、風呂敷、ポーチなど“かわいい”夢二のグッズもたくさん取りそろえております。

美術館にフोटスポット登場！

美術館の入り口と館内に、巨大な蝶のパネルを設置しました。パネル製作は公益財団法人むつ小川原産業活性化センター支援事業を活用しました。花と蝶を描く画家鷹山宇一にちなんで、バラをメインとした様々な草花で蝶の羽をデザインし、周りには鷹山の作品に登場する蝶をあしらいました。羽と羽の間に立って写真を撮ると、背中から羽が生えたような、素敵な写真が撮ることが出来ます。

撮影して、シェアしましょう！

「#七戸町立鷹山宇一記念美術館」を付けてSNSに投稿しましょう！

外に設置しているパネルは小さい蝶もデザインされているので、子供さんでも蝶なることが出来ますよ。



ご来館の皆様へお願い

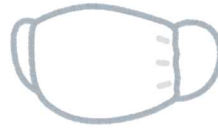
当館では新型コロナウイルス対策として、様々な取り組みを行っております。入館してから鑑賞までの一連の流れをご紹介します。



非接触型体温計で検温し、37.5度以上の場合は入館をご遠慮いただきます。



入館したら手指のアルコール消毒を忘れずをお願いします。



美術館に入るときは必ずマスクを着用しましょう。



展示室前の廊下は右側通行でお願い致します。



床に貼ってある白線に立つことで、お客様同士一定の距離を保つことができます。できるだけ会話はお控えいただき、静かなご観覧にご協力ください。

展示室内では…



入館記録票に、氏名と電話番号の記入をお願いします。万一感染者の来館が判明した場合にご連絡致します。

ご協力よろしくお願い致します。



7回目は「鷺の沼」と「カラスアゲハ」を紹介



6回目は「トルソ」と「テングチョウ」を紹介



5回目は「森の馬」と「キアゲハ」を紹介

鷹山宇一記念美術館
NEWS & REPORT
デリー東北掲載
絵画の蝶を追って
デリー東北新聞で全10回にわたって紹介いただきました「絵画の蝶を追って」が終了しました。前号の続きからご紹介します

第20回鷹山賞児童作品展
中止のお知らせ

今年度「鷹山賞児童作品展」は「第20回」という記念の年を迎えるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の状況を判断し、今年度の小・中学校への作品募集は行わず、中止することと致しました。来年度改めて第20回展を開催する予定です。「竹久夢二展」の後は常設展を計画しております。



10回目は「海の誕生」と「クモツマキチョウ」を紹介



9回目は「黒髪」と「クジャクチョウ」を紹介



8回目は「早春賦」と「キベリタテハ」を紹介

「竹久夢二展」開催中も引き続き美術館の一角にコーナーを作り、記事で紹介された標本を紹介しています。是非、夢二展に訪れた際は、蝶の標本もお楽しみください！

蝶の観察

【オオムラサキ】
国蝶です！
食草・エゾエノキ
前回ご紹介した蛹。
羽化してきれいな姿を
見せてくれました。



自分の姿こうっとり？！

大きさを測ってみたいくて
定規をセット！！！！

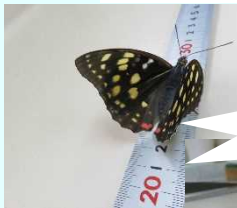
そこじゃないのよ



そのまま羽を広げてほしいな・・・



あら・・・



じゃじゃ～ん！！！！

大きさは測ることはできま
せんでしたが、無事羽化できて
本当に良かったです。
女の子だったのですが、羽に綺
麗なハートがついていて、なん
かおしゃれ。ちよつと幸せな気
分になりました。



ん？
ハート
発見！！

一回分のキットを同封し
ましたので、ぜひ挑戦してみ
てください。いろんな師の折
り紙を試してみたい。
そして、館内中程のフタジ
エックススポット近くの壁に
蝶を飾りたいと考えてあり
ますので、美術館へお越しの
際は、皆さんが作った蝶を一
つだけ持ってきてくださるか、
裏面に名前を忘れずに記入
してご来店。

このスペース
に貼ります。



七戸町立山手一記念美術館



リリーダーはここ七戸町で今回も数々の
面白い蝶に出会ったそうです。その中でも
希少なスジホソヤマキチョウ、渡り蝶のア
サギマダラを紹介します。私たちスタッフ
は同行叶わず、本当に残念！アサギマダラ
に会いたかった。

**ちようちよ
くらぶ**



暑さ厳しい今年の夏は、蝶の世
界にも少なからず影響を及ぼし
ているようです。ちようちよくらぶのリ
ーダーこと對馬氏によると、今年はキチョウ
が多いとのこと。黄色い蝶と言えばモンキ
チョウを思い浮かべますが、皆さまの身近
に飛んでいる少し小ぶりの黄色い蝶がキ
チョウです。

野外調査

【アサギマダラ】



北海道から飛んできて南下する渡り蝶でア
ゲハ蝶よりも大きい。七戸の八幡岳で遭遇。
見かけた翌週には次の地へ飛び立ったよう。
マーキングしたというので南でリリーダーの
名前が発見されることを願って。

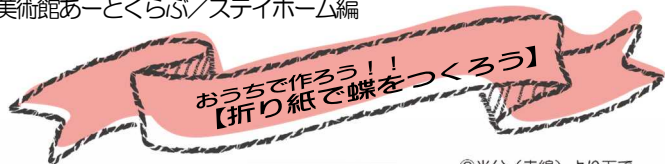
野外調査

【スジホソヤマキチョウ】



青森県レッドデータブックでは重要希少野
生生物 Bランクになっている蝶。
七戸町のある場所での出会い、その数の多さ
にびっくり。

美術館あーとくらぶ/ステイホーム編



- ①おりがみを半分に折り、折り目をつける。
- ②半分についている折り目に合わせて左右を折る。
- ③半分（赤線）より下で三角に開く。
- ④半分に折り目を付ける。（③の赤線）
- ⑤④で付けた折り目に向かって半分に折る。
- ⑥さらに半分に折り目をつける。さらに上も同様に折り目をつける。
- ⑦⑤～⑥で付けた折り目の半分の大きさを蛇腹に折る。
- ⑧真ん中を止める細い紙紐は違う色の折り紙を細く切り強度を出すために2～3回おる。
- ⑨蛇腹に紙紐を入れボンドで固定する。
- ⑩固定した部分から一周紙紐を回しボンドで固定する。
- ⑪広げたら完成。触角を付ける場合は余った紙紐を利用しましょう。

美術館日誌

7月

- 1日(水) 青森高校所有鷹山作品確認 (青森市/館長・遠藤)
- 2日(木) 版画家戸村春樹氏作品調査 (八戸市/遠藤・織川)
- 7日(火) モニタリング調査説明 (生涯学習課豊川氏)
- 8日(水) 夢二展ポスター他訂正作業 (友の会)
- 9日(木) 版画家戸村春樹氏作品調査 (八戸市/織川)
- 12日(日) 鷹山作品貸出 (北海道苫小牧市美術博物館 学芸員来館)
- 17日(金) 蝶調査 (ちようちよくらぶ) 会報100号打合せ (常務理事・遠藤)
- 2118日(土) 七彩会 (美術館2F) 会報100号打合せ (下山会長・奥山副会長)
- 22日(水) コピー機見直し説明会 (編集長・事務局長)
- 23日(木) 消防立入検査 蝶調査(ちようちよくらぶ) 夢二展展示・フォトシエニックス蝶看板打合せ (青スタ葛西氏・館長)
- 29日(水) コピー機見直し提出 (遠藤・織川・成田)
- 30日(木) モニタリングのヒアリング調査 (美術館2F) PCCソフト更新設定 (リコー)

8月

- 1日(土) 竹久夢二展グッズ搬入
- 4日(火) フォトシエニックス蝶看板打合せ (青スタ葛西氏・遠藤・織川)
- 6日(木) 蝶調査 (郷土館太田氏他1名来館)
- 14日(木) 蝶調査 (ちようちよくらぶ) 常設展15時閉館 閉館後作品撤去作業 作品撤去作業 夢二展展示替作業 (青森スタジオ・美術館スタッフ)
- 17日(日) 夢二展展示替作業 (青森スタジオ・美術館スタッフ)
- 22日(土) 竹久夢二展初日 (美術館2F)
- 23日(日) 蝶調査 (ちようちよくらぶ) 会報100号打合せ (下山会長・編集長・事務局長)
- 27日(木) 蝶調査 (ちようちよくらぶ) (公財)鷹山宇一記念美術振興会 福十孝衛前理事長(逝去) コピー機納品 (テクノール)
- 28日(金) コピー機納品 (テクノール)
- 29日(土) 蝶調査 (ちようちよくらぶ) 会報100号打合せ (美術館2F) (遠藤)
- 29日(土) RABラジオ中継 (織川)
- 29日(土) 夢二展展示替作業完了
- 29日(土) 竹久夢二展初日
- 29日(土) 蝶調査 (ちようちよくらぶ) 会報100号打合せ (美術館2F) (遠藤)
- 29日(土) RABラジオ中継 (織川)
- 29日(土) 夢二展展示替作業完了
- 29日(土) 竹久夢二展初日
- 29日(土) 蝶調査 (ちようちよくらぶ) 会報100号打合せ (美術館2F) (遠藤)
- 29日(土) RABラジオ中継 (織川)
- 29日(土) 夢二展展示替作業完了
- 29日(土) 竹久夢二展初日



夢二展初日！みかちゃんこと中島美華さんがラジオ中継にいらっしやいました。



9月

- 3日(木) 指定管理業務打合せ (生涯学習課来館)

蝶調査・作品貸出準備 (ちようちよくらぶ)

弘前市柳映会様14名来館 近田会計山本氏来館 町長・議長・白石議員来館



童心に戻って



- 10日(木) 会報100号入稿日
- 12日(土) 七彩会 (美術館2F)
- 24日(木) 苫小牧市美術博物館作品返却
- 26日(土) 会報100号発送作業

青森県立郷土館にて只今展示中!!

青森市にありまます青森県立郷土館で「ミニ企画展示「鷹山宇一と世界の蝶」を令和2年9月4日(金)から11月8日(日)まで開催しております。10/19・29は休館。開館時間は9時〜18時。入館料は一般300円となっております。開館25周年記念で好評を博した蝶の再現作品の中から8点が青森県立郷土館に。1部は鷹山宇一が描いた蝶展。2部は美しい世界のチョウ。当館とはひと味違う世界を鑑賞してはいかがでしょう？

鷹山宇一と世界のチョウ

令和2年 9月4日(金)~11月8日(日) 10/19・29は休館



第1部 鷹山宇一が描いた蝶展 ... 宇一が描いた蝶を標本で再現しました

第2部 美しい世界のチョウ ... 世界と日本の美しいチョウを他種ごとに紹介

開館時間 9:00~18:00
場所 3階特設コーナー
料金 通常の入館料
一般:310円(250円)
高:大150円(120円)
()は20人以上の団体
中学生以下無料、障害のある方・老人福祉施設に
入所の方は無料
主催:青森県立郷土館
030-0802
青森市本町2丁目8-14
電話 017-777-1585
FAX017-777-1588

お問合せ/青森県立郷土館
青森市本町2丁目8-14 017-777-1585



9月3日に柳映会様14名来館 弘前市のご来館 下さいました。 受け入れ人数は11名ですが、団体でも11名から受け入れさせていただきます。 絵画鑑賞コーナーは、お一人様1名ずつです。

～令和2年度第1回研修旅行のご案内～

東山魁夷・唐招提寺御影堂障壁画展

令和2年度研修旅行を下記のとおり催行致します。
但し、今後の新型コロナウイルス感染者拡大の状況等により、催行中止になる場合もあることをお含みおきください。

令和2年度 第1回研修旅行
日時: 令和2年 **11月15日(日)**
研修先: 盛岡市 岩手県立美術館
参加費: **7,000円**(入館料、昼食代、交通費等含む)
募集人員: 先着30名(最少催行人員は20名)
申込期限: 令和2年 **10月31日(土)**



唐招提寺御影堂障壁画再現展示イメージ

◆戦後を代表する日本画家、東山魁夷は、清澄で深い情感をたたえた風景画により、戦後の日本画の世界に大きな足跡を残しました。自然と真摯に向き合い、思索を重ねながらつくり

あげたその芸術世界は、日本人の自然観や心情までも反映した普遍性を有するものとして評価されています。なかでも、制作を受諾してから完成まで10年を費やした唐招提寺御影堂障壁画は画家の記念碑的大作です。東山は、多くの苦難を乗り越えて中国から来日し唐招提寺を開基した鑑真和上に捧げるため、日本や中国各地を歩いてスケッチを重ね、いく度も構成を練り、生涯のすべてをかける気持ちでこの仕事に臨みました。制作は二期に分けられ、第一期として昭和50年に奉納した《山雲》《濡声》では彩色画で日本の自然を描く一方、第二期(55年奉納)の《揚州薫風》《桂林月宵》《黄山曉雲》では中国風景を題材に水墨表現に挑み、新境地を拓いています。本展は、通常は非公開となっているこの障壁画全68面を展示するものです。

(豊田市美術館HPより引用)

研修行程(予定)

- 7:30 みちのく銀行十和田支店前
 - 7:55 七戸南公民館
 - 8:00 鷹山宇一記念美術館
 - 10:30 岩手県立美術館
 - 13:00 昼食(盛岡市内ホテル予定)
 - 15:30 盛岡市内出発
 - 18:00 鷹山宇一記念美術館着
- ※詳細日程は、後日参加者にお送りします。

新規会員入会お誘いのお願いと

友の会会員登録更新のお願い

平素から会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有り難う御座います。今後とも鷹山宇一記念美術館の応援をよろしくお願い申し上げます。友の会では会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんでいただけるよう研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の振興に寄与していく所存で御座います。なお、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○友の会主催事業概要

- ①県内外美術研修紀行(年2〜3回)
- ②海外美術研修旅行(数年ごとに実施)
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報(年4回)発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費 3千円
特典 ①無料入館券3枚。会員証提示により本人入館料2割引

○特別会員

年会費 1万円
特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで年間無料入館

○賛助会員

年会費 2万円
特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで年間無料入館

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

お知らせ

★新規会員の会費等について

令和2年10月1日〜令和2年11月31日までの間に新規会員となった方は令和4年3月31日まで年会費となりません。特別展開催中は特別展に合わせたグッズも販売していただきます。どうぞご利用ください。
☆お問い合わせ先
鷹山宇一記念美術館

編集後記

皆様からのお祝いの言葉とお便りを頂き、念の第一〇〇号記念完成。有り難う御座いました。心から感謝申し上げます。発行出来たばかりの新型コロナウイルスの渦中にもかかわらず、新しい生活様式を模索中ですが「今より」といふ言葉は「今より」といふ言葉に励まされたい。支えられたい。力です。鷹山宇一記念美術館の発展のため文化を発信して地域を盛り上げたい。今後はとも皆様の応援を願います。お申し込みありがとうございます。(照井壽一)